

研修で
学校が
変わる

中堅教諭等資質向上研修②

6年目研修① まとめ

令和2年6月11日(木)



「子ども主体で学び合う授業づくり」 ～協同学習の視点～

「Web会議による遠隔講義」 講師 高旗 浩志 氏(岡山大学 教授)

【研修のねらい】

■子ども主体で学び合う魅力ある授業づくりを理解し、授業力の向上を図る

1 「理解・思考型の学力観」を基盤に据えた授業へ

- ・意欲の差をつくらぬ授業 / わかったふりをさせない授業 / 学び取らせる授業
- ・「自ら学習する主体」を育む
- ・子ども主体で学び合い、高め合う「協同学習」で育む
- ・「支持的風土」のある教室に

2 「気がかりな子」に学ぶ

- ・語彙力(学習課題に対して粘り強く自分なりの言葉を紡ぐ力)と自信(学ぶことや目の前の困難に対して自分自身を前向きに押し出してくれる安心感)をつけ、学ぶことへの意欲を高める
- ・授業の「対処療法」と「悪循環」の流れを断ち切り、「自ら学ぶ主体」を育てる

中堅教諭として
学校全体に働きかける

【受講者のプラン・・・私はこの学びをこう活かす】 ～部分抜粋～

支持的風土に向けて

- 今まで全員が参加できる授業づくりにこだわってやってきたが、実際は「カタチ」にこだわっていただけだと痛感した。生徒同士の関わりや教師とのかかわりの部分で大きなヒントを得ることができた。授業をとおして支持的風土をつくっていくことが本当の意味での「全員が参加できる授業」になることだとわかった。

言葉を紡ぐ力に向けて

- 教材研究で要点を絞り、効率よく学習させるために穴埋めワークシートに頼っていたことを反省した。私以外にも、「効率のよい学習」を進めようとしている教員は多いと思う。教材研究では自らの失敗談を踏まえ「課題に対する自分の思いをつくる学習」につなげるように頑張りたい。

自ら学ぶ主体に向けて

- 職員で共有を図って取り組みたい。自分の授業のやり方や子どもたちとのかかわり方を考えさせられた。理解が遅れがちな児童には丁寧に説明したりわからせようと解説してしまったりしているが、肝心な子どもの学びを主体的なものから遠ざけてしまっていた事実気づいた。子どもたちの学びを常に意識した授業づくりをしたい。

6年目教諭として
自己の実践に取り入れ
授業改善を図る

3 「学習する集団」を育む授業づくりのポイント

- ・授業改善、授業研究の文化を創る
- ・「どのように教えるか？」から「どのように学びとらせるか？」へ
見通し、「個の自力解決」の時間の確保、交流・共有、まとめと振り返り、家庭学習と授業のつなぎ

【受講者のプラン・・・私はこの学びをこう活かす】 ～部分抜粋～

個の自力解決に向けて

- 「答えを探す学習」から「課題に対する自分の思いをつくる学習」へ、という部分で深く考えさせられた。決まった言葉や形式にこだわっている自分があった。自分の言葉で書くということが続ける中で、先生のおっしゃった自己内対話が紡がれ、友達の見方と考え方が取り入れられるようになるのだと実感した。

予習型の学習に向けて

- 自校は40分授業に取り組んでいるので、予習型の家庭学習を取り入れて児童の学習意欲を向上させたい。また、私は児童の質問に簡単に答えてしまうことがあるので、立ち止まって問いとして児童に投げかけ深まる学びを授業の中につくりたい。
- 自校は5教科を中心に予習に取り組ませてから授業に臨ませる取組を昨年度から始め、2分前着席後の予習にも全学級で取り組ませている。形は定着しつつあるものの予習の学びの質については一層深めていかなければならない。本日の授業改善のポイントを職員研修会の機会を設けて職員で共有を図って取り組みたい。